

【ハイチ活動中間報告】

健診部看護師長 兼 国際医療救援部 池田 載子

2010年1月12日、ハイチ共和国の首都ポルトープランス近郊でマグニチュード7.0の大地震が発生し、約30万人が死亡、負傷者約30万人にのぼる甚大な被害をもたらしました。この地震で約18万8,000戸の家屋が損壊し、被災者は国民全体の4分の1にあたる230万人に及びました。西半球で最も貧しい国ハイチの被災状況は深刻であり、被災者の生活再建への道のりは長期を要するとされています。

日赤はハイチ大地震の復興支援として、国際赤十字赤新月社連盟を通して、レオガンという町で保健医療活動と水・衛生事業のための人材・資金援助を全面的に行っています。水・衛生事業は新たな井戸の建設や古い井戸の修復、トイレの設置のハード部門と手洗いなどを推進する衛生普及活動に分かれています。保健医療活動は、CBHFA（Community Based Health and First Aid）と呼ばれる地域に密着したヘルスプロモーション（HP）および救急法の普及活動を行っています。日赤からは水・衛生事業に2名（1名が看護師）、保健医療活動に2名の看護師が派遣されています。私は、保健医療活動を行っています。

CBHFAは、赤十字が開発した活動形態の一つで、昨年までに84か国がCBHFAを用いて、地域の健康レベルの向上のための活動を行っています。ハイチでは2011年から本格的に導入され、ドイツやイタリアなど6か国の赤十字社が各地で活動しています。

具体的にどのような活動をしているかといいますと、まず地域住民の中からボランティアさんを選出してもらい（字が読める、活動時間が確保できるなどの条件がありますが）、各自が15から20戸の家庭を担当します。ボランティアさんたちに、まずは自分の地域の健康問題について理解してもらえるようにすることが第一歩で、この活動の最も大事なことになります。そのために、ボランティアさんに自分たちの地域の地図を描いてもらって、健康問題の原因となるような場所や、災害時の危険個所などを書き込んでもらいます。災害も含めた、健康問題のいわゆるハザードマップのようなものです。さらに年間の気候やイベントなどに合わせて、どのような災害や健康問題が1年間を通してどの時期に起こりやすいのか、といった季節カレンダーも作成してもらいます。



(写真上下) 健康問題、災害の季節カレンダーを作成中

2010年に発生したコレラ大流行は一旦終息したものの、その後も雨季になるとコレラの罹患率が激増しました。さらにハリケーンも多く、森林破壊が進んでいるため、土砂崩れや洪水も頻繁におこるため、年間を通してどの時期に何が起りやすいのかということ、自分たちで見つけてもらう必要があります。

自分たちで地域のアセスメントを行い、健康問題をピックアップすることにより、ボランティアさんたちの「自分たちの地域」の「健康問題」に対する関心が高まることを期待するわけです。その後、自分たちがピックアップし優先順位を付けた健康問題に対してどのように活動していくのか、半年から1年の行動計画を立ててもらいます。

それからマラリアや HIV、コレラなど自分たちが問題だと思ったトピックスに沿って、自分たちが具体的にどのように地域の人々に働きかけていけばいいのかを学んでいきます。

ここまでの、CBHFAを地域で実践していくための前準備です。地域での責任者を選び、ボランティアさんたちを選出してもらってトレーニングを終了するまでに、大体4から6か月かかります。地域によっては様々なトラブルがあり、1年以上かかってトレーニングがやっと終了した場所もあります。現在、大部分の地域でのトレーニングが終了し、ボランティアさんたちが地域で活躍中です。次回の活動報告では、実際の活動をどのように行っているのかお知らせしたいと思います。



Hatian RCの看護師が地域で現地のボランティアにトレーニングを行う



フィールドで必要なアドバイスを行うのも仕事の一つ